

編集後記

2016年の新年を明るい希望に満ちて迎えられた人々は、世界でも日本でもそれほど多くないであろう。改めて具体的に述べる必要もないほど、世界は暴力と紛争や対立、貧困と排除に満ち溢れている。わが国でも非正規雇用の常態化や子どもの貧困、老人の孤独死が報じられて久しい。それにも拘らず、政府の掛け声は勇ましい。「一億総活躍社会」という言葉を聞くと、その現実的可能性を考える以前にかつて聞いたきな臭いスローガン、「一億・・・」を思い出す世代もいるだろう。戦後に教育を受けた私なども‘危うさ’を感じてしまうスローガンである。

タレントの菊池桃子さんが『朝日新聞』(2016/01/23)で「一億総活躍」への「疑問」を率直に述べている。そして、排除をつくらぬ社会、「多様性への理解」を強調している。その通りであろう。生活な貧困に押しつぶされ、親や子どもを殺すことになる孤立した社会と家族を前に、ひとりの人間を救えないで一億が活躍する社会とはなんであろうか？鶴見俊輔は「お守りのにもちいられることば」を考察している。政府の声明は、往々にしてその典型的な例であろう。現代世界は、競争と市場や金融が最優先するグローバル化と新自由主義の暴走のもとに支配されてきた。その結果の社会的な亀裂と不安の拡がりは、市民同士の連帯と協力へと向わず、逆に、大衆迎合的な政治家により利用され組織化されがちである。

こうした流れに対し、10年以上にわたり異議申し立ての実験を重ね世界的に注目を浴びてきたのがベネズエラを含む南米の左派政権であった。本誌のエルナー論文は、このベネズエラのチャベス政権とマドゥロ政権の政治的諸改革を、チャベスタ内部の社会的・階級的基盤の「多様性」から分析している。ラテンアメリカの左翼に関する鋭い考察を発表し続けている世界的な権威であるエルナー氏の本誌への寄稿は貴重である。本論文もわが国のラテンアメリカ研究に刺激を与えるであろう。他方、知足氏は中国の環境汚染を研究対象として実績を上げている若手の研究者である。今回の知足論文は、中国の大気汚染に対する「草の根」環境NGOの活動を取り上げている。とりわけ、中国の大気汚染の越境的・複合的な特徴からしても、環境ガバナンスの向上が不可欠であることを指摘している。

李論文は、洪沢栄一と張睿父子との交流に関する12件の資料の発掘を通して、洪沢栄一と中国との関係の歴史的事実を検証しその一側面を明らかにしようとするものである。

「グローバル・ベーシック・インカム研究についての基本文献」(記者)であるレネ・ヘースケンスの論文を「資料」として掲載した。グローバルな貧困と格差拡大の現在、「すべての個人向けの生涯を通じた無条件所得保証というベーシック・インカム政策思想」研究の参考文献であろう。また本号では、ヴェトナム戦争研究と新興アジア経済論に関する2本の書評を掲載した。

[2016/01/25 松下 記]

アジア・アフリカ研究

2015年 第56巻 第1号 (通巻419号)

2016年1月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集・発行人 松下 洸

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (3946) 1479

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人(NPO法人)アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.